

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 β は最新活動面

コア写真

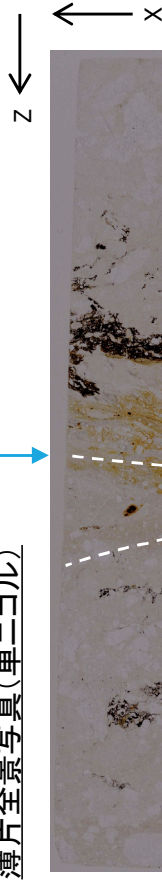


凡例

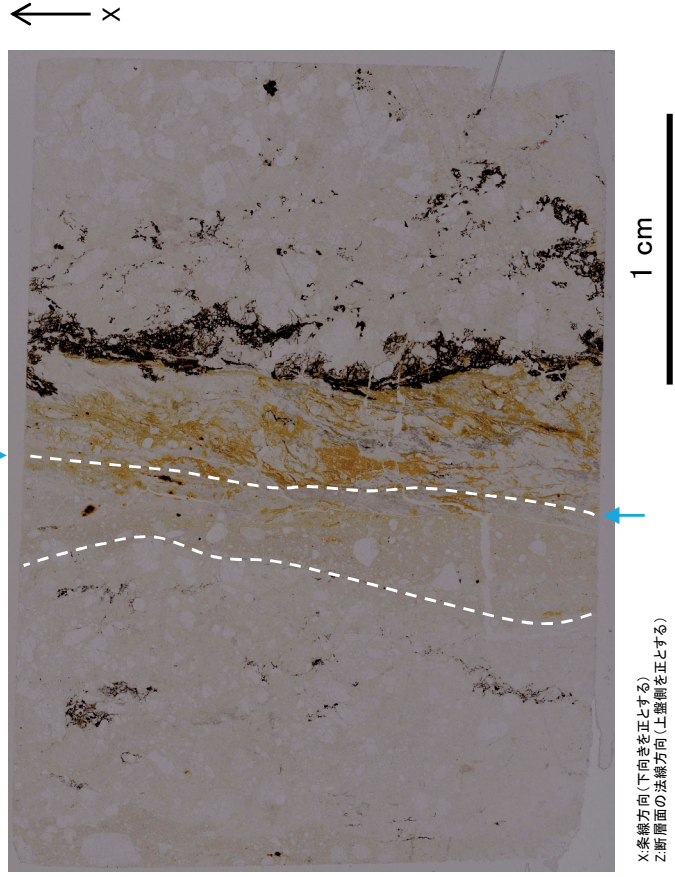
← 破砕部範囲※ 断層面

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

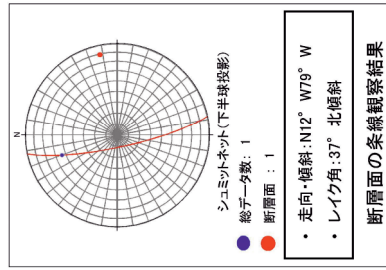
凡例

断層面

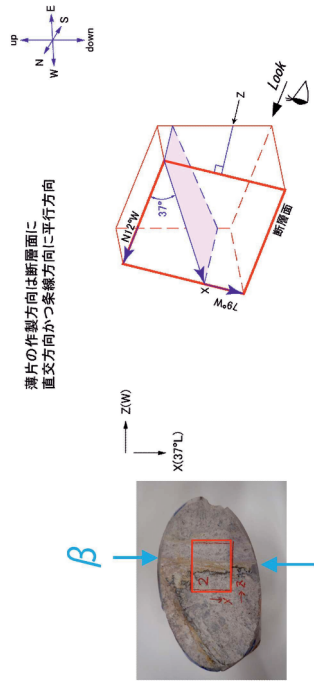
----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

- ・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 断層面に沿った粘土状部は連続しない。
 - 岩片は比較的多い。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



※断層面 β は最新活動面



走向・傾斜 N12°W 79°W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の条線方向(上向きを正とする)

走向・傾斜 N12°W 79°W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の条線方向(上向きを正とする)

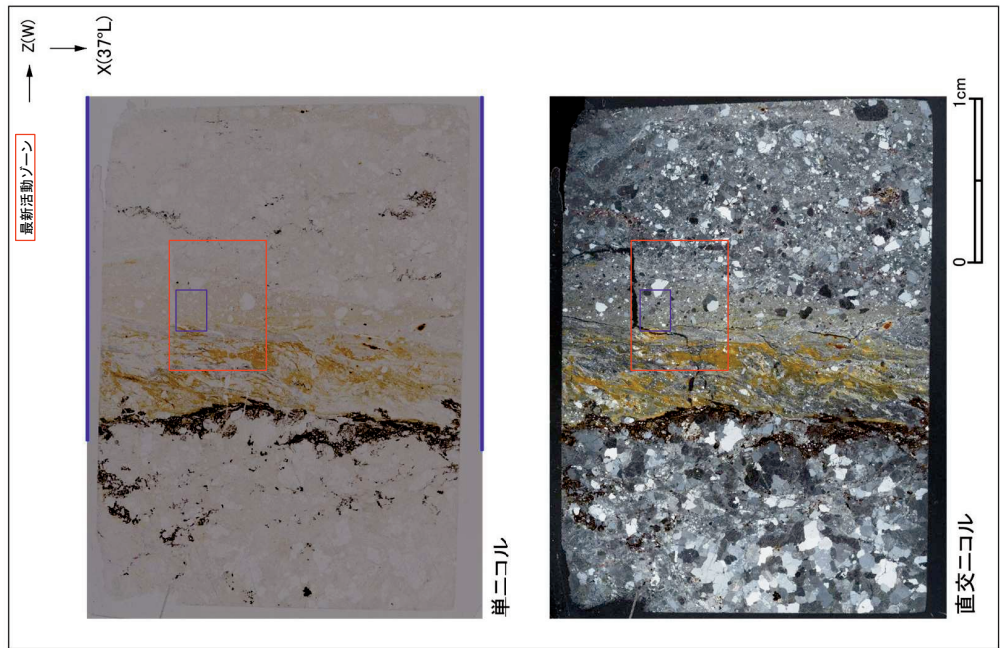
走向・傾斜 N12°W 79°W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の条線方向(上向きを正とする)

走向・傾斜 N12°W 79°W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の条線方向(上向きを正とする)

第7.4.4.248図 (14) 破砕部性状 H24-D1-1 深度45.91~45.94m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

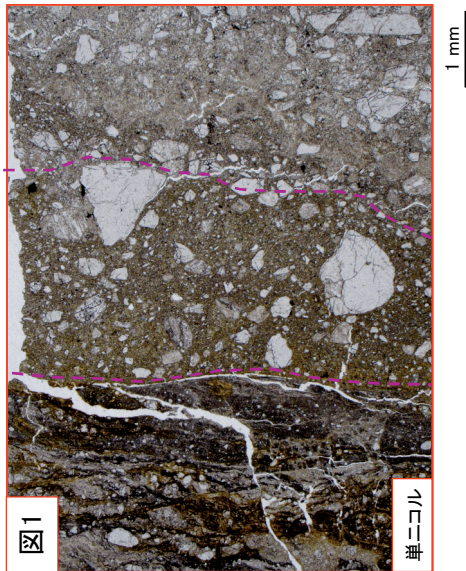
・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)

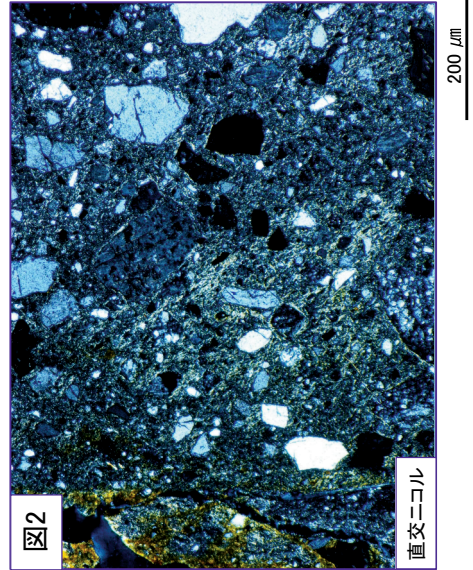
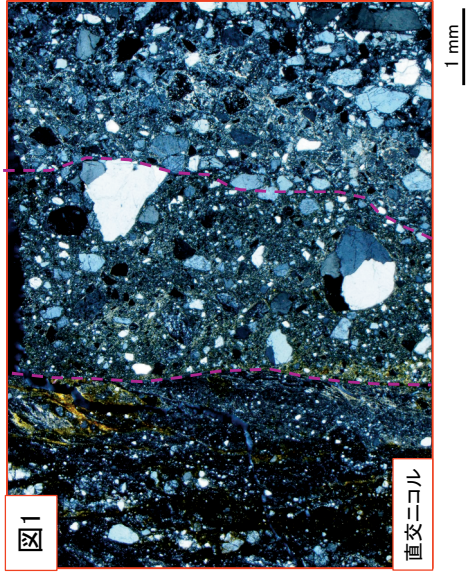
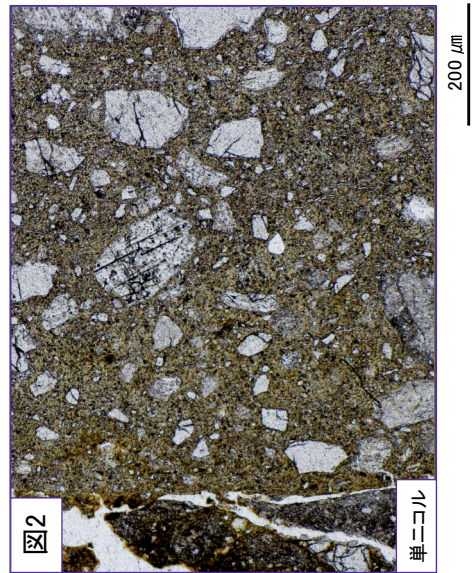


凡例
— カタクレーサイト

第7.4.4.248図 (15)

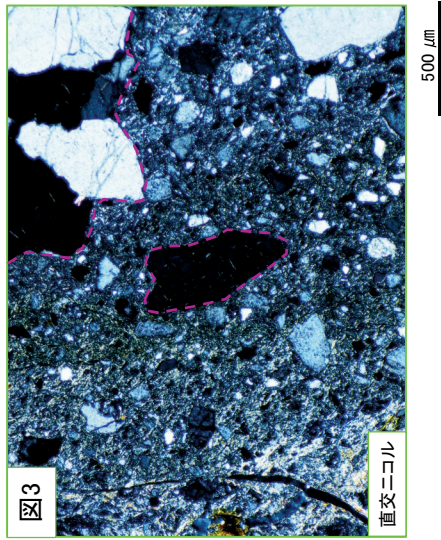
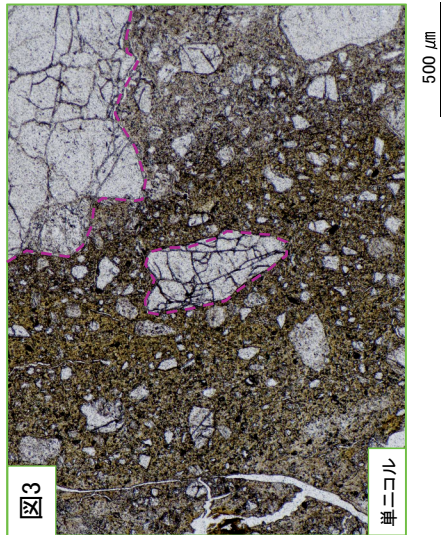
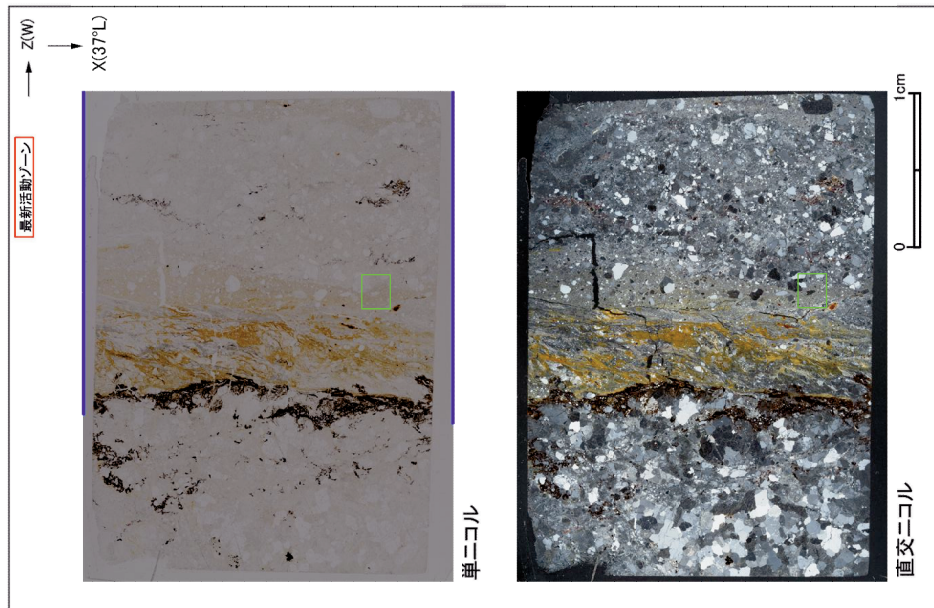


破線は帯状で直線的な範囲を示す



破碎部性状 H24-D1-1 深度45.91～45.94m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す

第7. 4. 4. 248図 (16)

破碎部性状 H24-D1-1 深度45.91~45.94m (変位セレンス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

(肉眼観察結果 深度45.94m)

- 肉眼観察では、粘土質礫状部は軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質は細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 β に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 β は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 岩片は比較的多い。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部は連続しない。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土質礫状部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	-	-

* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度45.94～46.41mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、全体的にやや軟質～硬質であるが、含まれる細粒部(白色粘土脈)は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片からなる組織が認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度46.41～46.45mの「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、やや硬質で、細粒部は膨縮し、直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質は細粒化したカタクレーサイトであることから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

45.94～46.41m：粘土混じり岩片状部(H1)
 上端35°、下端15°でともに直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1～2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。浅黄橙色を呈する。

46.41～46.45m：砂混じり粘土状部(Hc-2)
 上端15°で直線的にシャープに、下端20°でやや波打ちながら連続。径1～3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄橙色を呈する。幅25～30mm。

コア写真



凡例
 ← — — — — — → 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する



青砕部拡大

0 5 cm